

# 「学びの変革」通信

## ふくしま学力調査の結果から見えてきたこと

年度初めのお忙しい中、ふくしま学力調査の実施では大変お世話になりました。また、各学校におかれましては、自校の実態の分析・考察を丁寧に行い、授業改善や教育活動の改善に向けた取組を行っていただいていることかと思ます。

今回は、県内の結果概況についてお知らせします。

データの分析、活用については、高い数値を示している。

### 返却された結果帳票を用いてデータを分析、活用し、指導に活かしている

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
小学校	94.3%	96.2%	97.4%	95.0%
中学校	93.5%	96.3%	96.2%	94.8%

(学校) 問紙調査経年比較

一方、指導方法の改善等についての協議は、低い数値を示している。

### 調査結果をもとにした指導方法の改善等について協議した

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
小学校	66.7%	67.3%	70.9%	66.8%
中学校	60.5%	59.8%	64.5%	67.5%

(学校) 問紙調査経年比較

※ 令和3年度は参考データのため、集計に含めておりません。(令和2年度が未実施のため)

結果データの活用は進んでいる。調査結果をもとに「協議」する機会をさらに増やしていきたい。

### 学力や非認知能力、学習方略を大きく伸ばした教員から、伸ばした要因等について把握するための聞き取りなどを行った

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
小学校	45.9%	55.9%	59.0%	55.0%
中学校	39.1%	40.2%	52.1%	56.6%

(学校) 問紙調査経年比較

※ 令和3年度は参考データのため、集計に含めておりません。(令和2年度が未実施のため)

エビデンスに基づき、学力を伸ばした教員の取組を共有することで、児童生徒の意欲を引き出す工夫、つまずきへの対処法などの実践的なノウハウが広まり、学校全体の指導力向上につながる。

児童生徒の学力を向上させるためには、データの活用・分析を丁寧に行い、指導方法について協議すること、教職員一人一人のよい取組を共有していくことが重要です。

**学力向上・授業力向上**

## 学級や児童生徒についての客観的データを基に様々な視点・立場から話す



児童生徒の学力向上のためには、授業改善が大切なことはもちろんですが、生徒指導や学級経営など、様々なことが関わっています。教員それぞれがもつ知見や児童生徒の見立て等を共有することで、学力向上につながる直接的、間接的の方策が見えてきます。学級担任、教科担任が一人で抱え込むのではなく、管理職のリーダーシップの下、学校の組織力を最大化し、チームとして対応することが大切です。